

SAVE the CINEMA プロジェクト賛同者のみなさま

新型コロナウイルスの感染が広がる中、補償なき自粛要請によって窮地に立たされていく全国のミニシアターをなんとか救いたい、という一心で4月6日にスタートしたSAVE the CINEMA「ミニシアターを救え！」プロジェクトは、賛同いただいたみなさまの声に支えられながら、損失の補償と、継続のための支援を求めて、3ヶ月にわたり関係省庁への要望を行なってきました。

私たちは、ミニシアターは単に映画を上映する娯楽施設ではなく、地域において映画文化の多様性を実現する大切な芸術文化拠点であり、私たちの生活に欠くことのできないインフラであることを主張し、公的な支援が必要であることを政府に対して訴えました。しかし、日本においてはそのようなミニシアターの公共的な価値が政治的に認識されたことはなく、私たちの要望を実現することは容易ではありませんでした。

私たちのあげた声が、より大きな広がりを持つ必要を感じ、SAVE the CINEMA は、演劇を支援する演劇緊急支援プロジェクト、ライブハウスやクラブを支援する SaveOurSpace と連携し、#WeNeedCulture という合同アクションとして政府に対する要望も行いました。映画、演劇、音楽の3つの団体が共同のアクションを行ったのは、おそらく初めての歴史的な出来事でした。

みなさまの署名やSNSにおける賛同者の声の広がりとともに、私たちの主張に賛同していただいた与野党を超えた議員の方々の応援も広がってゆき、国会における第2次補正予算の審議においては、幾度となくミニシアターへの支援の必要性が言及され、首相答弁においても「ミニシアター、ライブハウス、小劇場などの施設については、映画や音楽、演劇など多様な文化芸術の創造、発信を支える一つの場として、我が国の文化芸術をより豊かなものに育てていくために重要な役割を果たしている」という認識が引き出されました。

様々な壁はありましたが、第2次補正予算においては文化芸術活動に対する500億円の緊急総合支援パッケージが計上され、ミニシアターも支援対象となることが確認されました。初めてミニシアターが行政において芸術文化施設として認められた瞬間でした。同時に、今回みなさまとともに「ミニシアターを救え！」と、声をあげたことは無駄ではなかったと思えた瞬間でした。

緊急事態宣言の解除とともに、ミニシアターの営業は再開されましたが、感染防止対策

を施しながらの営業で、相変わらず困難な状況が続いています。残念ながら、この間に閉館を余儀なくされたミニシアターもあります。先の読めない状況の中、まだまだ支援を必要としているというのが現状ですが、この度の第2次補正予算を一つの成果として、当初の要望に対する署名活動を終了するとともに、SAVE the CINEMAの第1弾のアクションをひと区切りとさせていただきたいと思います。署名は9万1千筆を超えました。ミニシアターを必要としている人がこれだけいるということを経験できたことが、何よりの成果だったのではないかと思います。これまでご支援いただいたみなさまに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

SAVE the CINEMAは、新たな映画文化の発展のために何ができるのかを模索しながら、引き続き活動を継続してゆきたいと思います。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

2020年7月13日
SAVE the CINEMA 一同

